

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	金 / Fri 1
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	必修 / required	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20154805001001	科目番号 / Subject code	48050010
科目ナンバリングコード / Numbering Code	HSMC 10001_271		
授業科目名 / Subject	長崎から出発するグローバル世界へ / Nagasaki and the World		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	木村 直樹 / Naoki KIMURA		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	木村 直樹 / Naoki KIMURA		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	木村 直樹 / Naoki KIMURA, 東條 正 / Toujiyuu Tadashi, 池田 幸恵 / ikeda Yukie, 野上 建紀 / Takenori Nogami, 石司 真由美 / Mayumi Ishizuka		
科目分類 / Class type	学部モジュール		
対象年次 / Year	1	講義形態 / Class Form	
教室 / Class room	教養教育G棟G3A / RoomG-39		
対象学生 (クラス等) / Object Student	多文化社会学部 1年次		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	n-kimura@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	多文化社会学部1号館1階		
担当教員TEL / Tel	2914		
担当教員オフィスアワー / Office hours	水曜日 3校時		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	文献史学・考古学・言語学・法学の各分野から、それぞれの学問のよって立つ学問的基盤を説明しながら、長崎に関わる講義を行います。特に、日本語の展開・アジア全体にとって大事件であったモンゴル襲来・長崎を結節点とする人の交流の事象については、複数の学問分野から、異なった切り口でとらえます。		
授業到達目標 / Goal	多文化社会学部では「ローカルからグローバル」を考える教育を行います。本科目では、長崎という地域が、歴史的にみて常に世界とつながってきたことを学び、そのことが日本列島に与えた影響と世界に与えた影響を考えます。		
授業方法 (学習指導法) / Method	講義形式		
授業内容 / Class outline / Con			
キーワード / Key word	長崎、異文化交流、国際法、翻訳		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	<p>参考書</p> <p>坂井 隆 「「伊万里」からアジアが見えるー海の陶磁路と日本ー」(講談社選書メチエ) 講談社、1998年</p> <p>大橋康二 「海を渡った陶磁器」(歴史文化ライブラリー) 吉川弘文館、2004年</p> <p>Michael Stolleis, Masaharu Yanagihara (ed.), East Asian and European Perspectives on International Law (Nomos, 2004)</p> <p>森岡美子 『世界史の中の出島 日欧通行史上長崎の果たした役割 改訂版』、長崎文献社、2006年</p> <p>村井章介 『増補中世日本の内と外』(ちくま学芸文庫) 筑摩書房、2013年</p> <p>田代和生 『新・倭館 鎖国時代の日本人町』(ゆまに学芸選書) ゆまに書房、2011年</p> <p>木村直樹 『 通訳 たちの幕末維新』 吉川弘文館、2012年</p>		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	講義期間中に教員の指示により複数回提出する課題60%と定期試験40%の合計		
学生へのメッセージ / Message for students	教科書は指定せず、参考書をあげています。ただし、高等学校日本史教科書程度の内容を前提にして講義を行う場合があるので、各自必要に応じて高等学校の教科書などで自習することを勧めます。 また、事前に予習論文を配布することが多いので、必ず読んでくること。		
授業計画詳細 / Course Schedule			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	ガイダンス 長崎から世界をみる(木村ほか) 10月2日		
第2回	アジアの中の元寇(木村) 10月9日		
第3回	偽使と倭寇の時代(木村) 10月16日		
第4回	水中考古学の世界と長崎(野上) 10月23日		
第5回	鷹島沈船から見える元寇(野上) 10月30日		
第6回	日本近世のゲートウェイ長崎・対馬(木村) 11月6日		
第7回	陶磁器生産と長崎(野上) 11月13日		

第8回	世界をめぐる日本の陶磁器（野上）11月20日
第9回	近世長崎と通訳・翻訳（木村）11月27日
第10回	長崎通詞の翻訳活動の実態（1）（池田）12月4日
第11回	長崎通詞の翻訳活動の実態（2）（池田）12月11日
第12回	近代港湾都市長崎の形成（東條）12月18日
第13回	長崎を通じた日本と国際法の「出会い」（石司）12月25日
第14回	シーボルト父子が遺した功績（石司）1月8日
第15回	まとめ 長崎からみえること（木村ほか）1月22日
第16回	定期試験

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	木 / Thu 1
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	必修 / required	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20154805002001	科目番号 / Subject code	48050020
科目ナンバリングコード / Numbering Code	HSMC 10011_271		
授業科目名 / Subject	アジア理解への扉 / Introduction to Asian Studies		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	首藤 明和 / Toshikazu Shuto		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	首藤 明和 / Toshikazu Shuto		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	首藤 明和 / Toshikazu Shuto, 王 維 / Wan Uei, 南 誠 / Minami Makoto, 賽漢卓娜 / Saihanjuna, 野上 建紀 / Takenori Nogami		
科目分類 / Class type	学部モジュール		
対象年次 / Year	1	講義形態 / Class Form	
教室 / Class room	教養教育G棟G3A / RoomG-39		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	(科目責任者) 首藤明和 shuto@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	多文化社会学部 1号棟 首藤研究室		
担当教員TEL/Tel	095-819-2921		
担当教員オフィスアワー/Office hours	王・南・賽漢卓娜・野上(随時), 首藤(木-3), 但しメールによるアポイントメントが必要		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	アジア近代への基本的な認識枠組みを学ぶ。その上で、海洋都市・長崎の世界との交流を、「アジアのなかの長崎、長崎のなかのアジア」という視点の下、陶磁器や沈没船などの海底遺跡、あるいは唐寺や中華街の祭礼にみる文化の伝播・受容などから具体的にみる。さらには、今後のアジア及び長崎の課題・展望を、国際関係の変遷や、民族、ジェンダーの変容などに着目しつつ、理論と実践の双方から考える。		
授業到達目標/Goal	長崎とアジアの関係を、歴史的、文化的、および地政学的な視点から理解し説明できるようになる。世界における私たち自身のポジションをアジアの歴史と現在から捉えることができるようになる。長崎を足掛かりに世界を舞台に活動する意義や方法を見出すことができるようになる。		
授業方法(学習指導法)/Method	レジュメやプリントを配布する。また、画像や映像資料などの視聴覚教材やパワーポイントを利用して授業を行う。授業後、適宜、ミニレポートを要求することになる。受講者は、授業の内容を踏まえた上で、提示した参考文献や資料などを積極的に読むよう心掛けてほしい。		
授業内容/Class outline/Con	第1回~第3回では、脱亜と興亜、強権と公理、内発と外発からアジア近代を概観する。第4回~第6回では、アジアで出土した陶磁器や沈没船などの海底遺跡からみた「海を介したアジアの交流」を紹介する。第7回から第9回では、「長崎とアジアの歴史と文化」、「長崎と中国」、「長崎と華僑」をテーマに、特に中国との交流と中国文化の伝播・受容の歴史を紹介する。第10回~第12回では、現代中国の家族観と「男女平等」、アジアにおける日本人の移動とジェンダーなどを取り上げ、ジェンダーの変容を紹介する。第13回から第15回では、戦前戦後の東アジアにおける人の移動と歴史記憶について、国際関係の変遷や国家の管理システムに着目しながら紹介する。		
キーワード/Key word	近代化、陶磁器、沈没船、港、窯跡、唐寺、唐人屋敷、華僑、中華街、祭礼、ジェンダー、移民、歴史記憶		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	随時プリントを配布。適宜参考書を紹介。		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	ミニレポート(20点)、期末筆記試験(80点)		
受講要件(履修条件)/Requirements	授業内容に関連する長崎の施設・遺跡の見学を授業の予復習とする。		
学生へのメッセージ/Message for students	質問や相談は気軽に研究室へ(ただし、オフィスアワーに)。		
授業計画詳細 / Course Schedule			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	アジア近代を概観する(1) 「脱亜と興亜」の視点 (首藤)		
第2回	アジア近代を概観する(2) 「強権と公理」の視点 (首藤)		
第3回	アジア近代を概観する(3) 「ハイブリディゼーション」の視点 (首藤)		
第4回	海を介したアジアの交流(1) 陶磁器からみたアジアの交流 (野上)		
第5回	海を介したアジアの交流(2) 窯跡からみた東アジアの製陶技術交流 (野上)		
第6回	海を介したアジアの交流(3) 沈没船と港の遺跡からみたアジアの海上交易 (野上)		
第7回	「長崎とアジア」 長崎とアジアとの交流の歴史的視点からの検討 (王)		
第8回	「長崎と中国」 長崎の中国文化受容の文化的視点からの検討 (王)		
第9回	「長崎と華僑」 地域的視点からの検討 (王)		
第10回	移動とジェンダー(1) 「移民の女性化」と東アジア (賽漢卓娜)		
第11回	移動とジェンダー(2) 現代日本人の移動とジェンダー (賽漢卓娜)		

第12回	移動とジェンダー(3) トランスナショナルな結婚移動 (賽漢卓娜)
第13回	移民と歴史記憶で見るアジア(1) 多みんぞくニホンをめぐる人の移動 (南)
第14回	移民と歴史記憶で見るアジア(2) 日本人移民の史的展開 (南)
第15回	移民と歴史記憶で見るアジア(3) 戦争記憶と他者認識 (南)
第16回	筆記試験

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	木 / Thu 2
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	必修 / required	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20154805003001	科目番号 / Subject code	48050030
科目ナンバリングコード / Numbering Code	HSMC 10021_271		
授業科目名 / Subject	アフリカ理解への扉 / Introduction to African Studies		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	増田 研 / Masuda Ken		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	増田 研 / Masuda Ken		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	増田 研 / Masuda Ken, 波佐間 逸博 / Itsuhiro Hazama, 鈴木 英明 / Hideaki Suzuki		
科目分類 / Class type	学部モジュール		
対象年次 / Year	1	講義形態 / Class Form	
教室 / Class room	教養教育G棟G3A / RoomG-39		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	ken-m@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	総合研究棟2F		
担当教員TEL / Tel	095-819-2923		
担当教員オフィスアワー / Office hours	火曜日16:10-17:40		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	アフリカ大陸は日本からはるか彼方に位置する。だが日本とアフリカは、ひろくヨーロッパやアジアと繋がるひとつの文化的世界を形成している。講義は担当者それぞれのフィールドワーク体験を紹介することから始まり(第1部)、次いで地理と歴史を概観する(第2部)。第3部では民族紛争やイスラームをはじめとした宗教問題、さらには長崎大学とアフリカとの関わりを理解することを通して、受講生のアフリカ理解の糸口とする。		
授業到達目標 / Goal	アフリカ地域に関する基本的な知識を習得し、世界史的な位置づけを明確に説明できること。		
授業方法 (学習指導法) / Method	基本的に講義科目であるが、授業を運営するに当たって学生諸君の積極的な参加を求めたい。		
授業内容 / Class outline / Con	講義は全3部から成る。第1部は担当教員それぞれのフィールド経験を語ることを通じて、アフリカ世界を実感できるようにする。第2部ではアフリカと外部世界(アジアやヨーロッパ)との関係を軸とした歴史を学ぶ。第3部では現代アフリカ社会に関わる問題、とくに紛争、宗教、病気をとりあげる。講義の最後には、アフリカのことをより深く学びたいと考える学生のための、さらなる学びのガイダンスを行う。		
キーワード / Key word	アフリカ、インド洋、社会、歴史、地域、世界史		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	参考書については講義中に紹介・指示を行う。		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	毎回の講義の予習・復習および提出物による評価: 70% 期末試験による評価: 30%		
学生へのメッセージ / Message for students	アフリカは日本とほとんど関わりがないように思われていますが、実際はそうではありません。みなさんが社会の中核を担うころには、アフリカは大きなプレゼンスを持つようになります。遠からず、アフリカを知っていることが社会の常識になるでしょう。その時代を先取りしてください。		
授業計画詳細 / Course Schedule			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	「アフリカ」の多様性(増田) アフリカ大陸および隣接地域の地理環境や言語分布といった基礎情報を共有する。とりわけ生業経済の多様性、キリスト教とイスラーム、地中海やインド洋を介した外部との交渉の歴史などを概説し、「アフリカ」を一括りにできないことを理解する。		
第2回	アフリカの生活文化(1)(増田) エチオピアの高地社会と低地社会のフィールドワークから、「国家と民族」の問題を理解する。		
第3回	アフリカの生活文化(2)(波佐間) ウガンダの牧畜民社会のフィールドワークから、生業と民族間関係の問題を理解する。		
第4回	アフリカの生活文化(3)(鈴木) 沿岸部のフィールドワークから、アラブとアフリカの地域間の人口移動と文化交流を理解する。		
第5回	アフリカとインド洋(鈴木) アフリカと外部とのつながりを、とくにアラブ・イスラーム地域との関連において理解する。		
第6回	サハラ地域(増田) アフリカと外部とのつながりを、とくにサハラ交易とイスラーム化の事例から考える。		
第7回	ヨーロッパ人のアフリカ探検(増田) 19世紀に活発になったヨーロッパ人によるアフリカ探検と情報収集の歴史的意味を考える。		
第8回	ヨーロッパ植民地としてのアフリカ(増田) ヨーロッパによる植民地支配と、その影響、歴史的意義を考える。		

第9回	日本とアフリカの歴史的つながり(1) (鈴木) 近世以降のアジアからインド、アラブ、アフリカへと繋がる海域交流を理解する。
第10回	日本とアフリカの歴史的つながり(2) (増田) 近代以降の日本人による海外進出と、アフリカへの渡航の事例をもとに日本とアフリカの歴史的つながりを考える。
第11回	現代のアフリカ(1) (増田) 紛争と平和構築、社会開発、経済開発といった現代的トピックを包括的に理解する。
第12回	現代のアフリカ(2) 現代思想のムーブメント (波佐間) 政治、言語、ジェンダー、開発をめぐるアフリカからの知の発信を考える。
第13回	現代のアフリカ(3) アフリカとイスラーム (鈴木) アフリカとアラブ地域のイスラームを通じた現代的つながり、歴史的なイスラーム化のプロセスを理解する。
第14回	現代のアフリカ(4) 長崎大学とアフリカ (増田) アフリカ社会が抱えている保健・医療・感染症問題と、長崎大学の取り組みを理解する。
第15回	アフリカを体験したい人のためのガイド(増田・波佐間・鈴木) 講義全体のまとめ、およびアフリカについて学びたい人のためのガイダンス。
第16回	期末試験

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	金 / Fri 2
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	必修 / required	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20154805004001	科目番号 / Subject code	48050040
科目ナンバリングコード / Numbering Code	HSMC 10031_271		
授業科目名 / Subject	オランダ ヨーロッパ理解への扉 / Introduction to Dutch and European Studies		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	葉柳 和則 / Hayanagi Kazunori		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	葉柳 和則 / Hayanagi Kazunori		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	葉柳 和則 / Hayanagi Kazunori, 木村 直樹 / Naoki KIMURA, 正本 忍 / Masamoto Shinobu, 山下 龍 / Yamashita Noboru, 見原 礼子 / Reiko Mihara		
科目分類 / Class type	学部モジュール		
対象年次 / Year	1	講義形態 / Class Form	
教室 / Class room	教養教育G棟G3A / RoomG-39		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	hayanagi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	多文化社会学部教員室7(総合教育研究棟12F)		
担当教員TEL/Tel	095-819-2932		
担当教員オフィスアワー/Office hours	金曜日4校時(科目責任者) 他の担当教員に関しては講義中に指示		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	この授業は、近現代ヨーロッパ社会とその文化の光と影を概観することを目的としている。確かに、ヨーロッパの社会と文化は、私たちの現在に決定的な影響を及ぼしている。たとえば大学での教育・研究は基本的にはヨーロッパで作られたフォーマットに基づいて営まれている。世界システムや諸制度もまたその起源のほとんどは近代ヨーロッパにある。しかし、アジアやアフリカに対する苛烈な植民地支配があって初めて、ヨーロッパは世界の中心として君臨したこともまた事実である。20世紀後半の歴史学や文化学においてヨーロッパ中心史観に疑問を投げかけ、その文化を根底から問い直す動きが活発になったのはそのためである。1990年代以降のヨーロッパは、移民の受入れと国境の稀薄化によって近代的システムを根底から問い直す実験の場(EU)となっているが、これは新たなフォーマット構築の試みである。この講義では、長崎と深い関わりを持ち、ヨーロッパが内包する多様な 이슈が集約的に現れる国家オランダにアクセントを置きながら、複数のヨーロッパの国を事例として検討することで、私たちがいま-ここにおいてヨーロッパ研究をすることの意味を明らかにする。		
授業到達目標/Goal	ステレオタイプ化されたヨーロッパイメージを乗り越え、歴史学、社会学、文化研究の知見に基づき、近代初期以降の世界システム変容の中でオランダとその背景に広がるヨーロッパの基本的理解を獲得する。		
授業方法(学習指導法)/Method	基本的に講義科目であるが、教員と学生との間で「問い」と「答え」のやり取りが絶えず行われる。		

<p>授業内容/Class outline/Con</p>	<p>オランダは17世紀から18世紀にかけて「海上帝国」と呼ばれ、世界中に植民地と交易のネットワークを築き上げた。出島における貿易もまたその一環としてある。現在のオランダは、1952年にECSC（石炭鉄鋼同盟）の創設メンバーと成って以降、ヨーロッパの統合において重要な役割を果たしてきた。また、社会・文化的多様性に関する政策の先進的実験国家でもある。この授業では、オランダを「窓」として、近代世界の枠組みを作り、現在、壮大な社会実験のただ中にあるヨーロッパという地域について概観し、ヨーロッパ研究のための基本視角を提示する。</p> <p>(計画)</p> <p>第1回 イントロダクション(葉柳和則) 10/2 ・「ヨーロッパ」を定義することは可能か? 内包と外延をめぐって</p> <p>第2回 ヨーロッパの起源と根源(正本忍) 10/9 ・古代ギリシア・ローマ文化、ユダヤ=キリスト教文化</p> <p>第3回 中世から近世へ(正本忍) 10/16 ・ユダヤ=キリスト教文化、宗教改革</p> <p>第4回 オランダ独立戦争から「黄金時代」へ(山下龍) 10/23 ・ヨーロッパの権力バランス、宗教対立、貴族と庶民</p> <p>第5回 オランダ海上帝国と世界システム(木村直樹) 10/30 ・ネーデルラント連邦共和国と植民地主義</p> <p>第6回 フランスと近代世界(正本忍) 11/6 ・市民革命、国民国家、ナポレオン</p> <p>第7回 近世日本とオランダの関係(木村直樹) 11/13 ・ユーラシア大陸の両端をつなぐ理路と想像力をめぐって</p> <p>第8回 近現代のオランダと北欧(山下龍) 11/20 ・教育と福祉制度</p> <p>第9回 EUへと到る道(見原礼子) 11/27 ・汎ヨーロッパ主義から統合ヨーロッパへ</p> <p>第10回 ヨーロッパの戦後とベネルクス三国(見原礼子) 12/4 ・統合への道における小国の役割</p> <p>第11回 EUの理念と機構(見原礼子) 12/11 ・壮大な実験としてのEUの概要</p> <p>第12回 EUに参加しない国々(葉柳和則) 12/18 ・非EU国の戦略: スイスとリヒテンシュタインを事例として</p> <p>第13回 オランダとベルギーの移民と多文化政策(見原礼子) 12/25 ・オランダ・ベルギーの移民政策と多文化状況の現在を探る</p> <p>第14回 ドイツ語圏の移民と多文化政策(葉柳和則) 1/8 ・現代フランスの移民政策と多文化状況</p> <p>第15回 私たちにとってヨーロッパ研究とは?(全員:コロキウム) 1/22 ・ヨーロッパを真似る、ヨーロッパに学ぶ、ヨーロッパから学ぶ</p> <p>第16回 試験</p>
<p>キーワード/Key word</p>	<p>西洋/東洋、オランダ、植民地主義、長崎、EU/非EU諸国 移民</p>
<p>教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book</p>	<p>特定の教科書は使用しないが、文献リストを配布する。また、個々の教材はできる限りLACSシステムを利用して配布する。</p>
<p>成績評価の方法・基準等/Evaluation</p>	<p>各回の講義課題(30%)、各回のコメント・質問シート(15%)、 学期末試験(55%)</p>
<p>学生へのメッセージ/Message for students</p>	<p>配布した資料の指定箇所を予め読んでくること、講義の内容に対応した課題に取り組むことを予習-復習として重要視する。文献リストの掲載された書籍のうち興味を抱いたもの数冊を読むことで授業理解を深めることが必要である。</p>

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	木 / Thu 3
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	必修 / required	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20154805005001	科目番号 / Subject code	48050050
科目ナンバリングコード / Numbering Code	HSMC 10041_271		
授業科目名 / Subject	日本を知る / Introduction to Japanese Studies		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	佐久間 正 / Tadashi Sakuma		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	佐久間 正 / Tadashi Sakuma		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	佐久間 正 / Tadashi Sakuma, 木村 直樹 / Naoki KIMURA, 池田 幸恵 / ikeda Yukie, 才津 祐美子 / Saitu Yumiko		
科目分類 / Class type	学部モジュール		
対象年次 / Year	1	講義形態 / Class Form	
教室 / Class room	教養教育G棟G3A / RoomG-39		
対象学生 (クラス等) / Object Student	1年		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	sakuma@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	多文化社会学部1号館		
担当教員TEL / Tel	095-819-2920		
担当教員オフィスアワー / Office hours	授業終了後30分。それ以外の場合は事前に教員と相談してください。		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	本科目は学部モジュール科目の一つである。日本から世界に雄飛しようとする人文社会系グローバル人材にとって、多文化社会に関する知識や語学力・コミュニケーション力とともに、日本の歴史や社会、文化についての基本的知識を有していることは必須の条件である。授業では、日本列島の地理的位置や風土的条件に留意しつつ、アジアさらには世界に開かれた視点から、日本語(池田)、歴史と社会(木村)、思想と宗教(佐久間)、民俗と生活(才津)に焦点を当て日本の特質について考える。		
授業到達目標 / Goal	日本の歴史や社会、文化について基本的知識を持っており、それらの内容や特徴について説明できる。		
授業方法 (学習指導法) / Method	本科目は4人の教員が担当するオムニバス形式の授業である。		
授業内容 / Class outline/Con			
キーワード / Key word	日本語、歴史、近代、思想・宗教、生活・民俗		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	教科書は用いず、資料を配付し、参考文献は適宜紹介する。		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	定期試験70%、授業への参加30%。		
学生へのメッセージ / Message for students	学部モジュールは、長崎から出発し、アジア、アフリカ、ヨーロッパ(オランダ)をめぐる再び長崎に帰る、多文化社会学部のフィールドをめぐる知の旅です。世界を知ったとき、日本はどのように見えてくるのか。本授業の学びも踏まえながら、皆さんの新たな日本像を形成してください。		
授業計画詳細 / Course Schedule			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	はじめに 世界の中の日本、日本の中の世界		
第2回	日本語の成立		
第3回	日本語の歴史		
第4回	現代日本語の特質		
第5回	「日本」の成立		
第6回	武家と天皇		
第7回	鎖国と開国		
第8回	「近代」とは何か		
第9回	土着・外来・日本化		
第10回	仏教と神道		
第11回	徳川社会と儒教		
第12回	近代日本の思想		
第13回	生業-農山漁村の暮らし		
第14回	年中行事		
第15回	人生儀礼		
第16回	定期試験		

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	木 / Thu 3
開講期間 / Class period	2015/04/01 ~ 2015/09/27		
必修選択 / Required/Elective class	必修 / required	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20154805006001	科目番号 / Subject code	48050060
科目ナンバリングコード / Numbering Code	HSMC 10051_422		
授業科目名 / Subject	グローバルキャリアへの扉 / Introduction to Global Career Development		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	源島 福己 / Fukumi GENJIMA		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	源島 福己 / Fukumi GENJIMA		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	源島 福己 / Fukumi GENJIMA, 森川 裕二 / Morikawa Yuji, 佐藤 美穂 / Sato Miho, 広瀬 訓 / Hirose Satoshi, 近江 美保 / Miho Omi, 見原 礼子 / Reiko Mihara		
科目分類 / Class type	学部モジュール		
対象年次 / Year	1	講義形態 / Class Form	
教室 / Class room	教養教育G棟G3A / RoomG-39		
対象学生 (クラス等) / Object Student	1年生		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	fgenjima@nagasaki-u.ac.jp, shirose@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	源島 (言語教育研究センター2階)、廣瀬 (核兵器廃絶研究センター)		
担当教員TEL/Tel	源島 (2238)、廣瀬 (2204)、近江 (2917)、佐藤 (7794)、森川 (2904)		
担当教員オフィスアワー / Office hours	源島 : 水4限、廣瀬 : 水3限、森川 : 火13:30 - 15:00、佐藤 : 金13:30 - 15:00		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	グローバル人材とは何か、グローバル社会で活躍するための能力、適性、資格等の諸要素や必要条件とは何か等について、教員が個々人の実社会での職業体験に基づいて講義する。講義内容は座学の他に、グループワーク、意見発表会やレポート作成、外部講師の講演等が含まれ、この授業を通して学生は幅広い職業世界についての理解を深め、グローバル人材として活躍するためには、高度な語学の運用能力、留学、インターンシップ、ボランティア等の経験が重要であることを理解する。また、その理解に立って自分の進路の方向性を定め、将来に向けた準備として、学問や様々な社会活動に積極的に取り組む必要性を再認識することが期待される。本科目はキャリアについての基本的な理解を通して、学生に将来の仕事と学問の関係性を学ばせるための導入教育である。		
授業到達目標 / Goal	職業世界に関する具体的な知識を増やし、自分の能力、性格や適性を考えて将来の職業をイメージし、そうした職業に従事する際に必要な学問の領域、様々な資格や要件についての具体的な理解を深める。またそれらの諸要素を身に付けるために、これからどのような学問を関連的かつ体系的に修めるべきか、どのような社会活動に参加すべきかを考え、実際に行動に移せるようになり、その内容を簡潔に分かり易く他者にも説明できる。		
授業方法 (学習指導法) / Method	本授業は6人の教員によるオムニバス方式の授業であり、個々の教員が異なるテーマに関して適宜授業中に教材を配布したり、あるいは授業の前後に学習内容を指定する。学生はそれ等を熟読した上で質疑応答やグループディスカッション等を交えた授業を行う。また授業では各種のIT機器を用いて、映像等を利用したより視覚的な授業を提供する。授業は双方向性を図るために、できるだけグループワークやディスカッションを取り入れ、議論した内容について発表をさせることがある。また個々のテーマについて教員がレポート課題与え、レポートを提出させる。授業の中で、外部講師を招いて講演を行うこともある。		
授業内容 / Class outline / Con			
キーワード / Key word	グローバル化、グローバル人材、国連、UNESCO、NGO、NPO、ジャーナリズム、人事制度		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	教材は関連資料等を原則として教員が準備し配布する テキスト、参考書等は必要に応じて適宜指示する		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	各教員から要求されるレポート (90%)、授業参加の状況 (10%)		
受講要件 (履修条件) / Requirements	一部英語による授業を含むので、積極的に英語を使ってコミュニケーションを行うこと		
学生へのメッセージ / Message for students	グローバル人材になるための志を互いに共有し、友達を作り切磋琢磨し合おう		
授業計画詳細 / Course Schedule			
回 (日時) / Time (date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	4月9日 (木) 廣瀬訓 各教員紹介、授業のガイダンス、国際機関の仕事 : 外交官、NGOスタッフ、国際公務員は何が違うのか		
第2回	4月16日 (木) 廣瀬訓 国際機関で働くには何が必要か (語学力、資格、学力、学生時代の準備、専攻科目、留学体験等)		
第3回	4月23日 (木) 廣瀬訓 国際機関で求められる能力と仕事の現実 課題レポート1		
第4回	4月30日 (木) 見原礼子 UNESCOについて		

第5回	5月7日（木）見原礼子 体験して感じたUNESCOの現実と課題
第6回	5月14日（木）見原礼子 私はなぜUNESCOで働こうと思ったのか（学生時代の学びと卒業後の職歴） 課題レポート2
第7回	5月21日（木）佐藤美穂 女性と健康問題を通して考えるキャリア
第8回	5月28日（木）佐藤美穂 貧困の現実と国際NGO活動 レポート課題3
第9回	6月4日（木）近江美保 グローバルキャリアとしてのNGOという職業選択課題レポート3
第10回	6月11日（木）近江美保 NGOの現実と問題点 課題レポート4
第11回	6月18日（木）森川祐二 ジャーナリストの仕事と求められる能力
第12回	6月25日（木）森川祐二 ジャーナリストの現実と私のキャリアパス 課題レポート5
第13回	7月2日（木）源島福己 企業のグローバル化と社会人に期待される能力（社会人基礎力）
第14回	7月9日（木）源島福己 キャリア形成のための自己理解（Life Story） 課題レポート6
第15回	7月16日（木）源島福己 職業選択とキャリア探索 学生による授業評価
第16回	